

バルバドスから アスリート ミュージシャン がやってきた

南陽市は、バルバドス国をパートナーにホストタウン事業に取り組んでいます。2月24日から26日にかけて、バルバドス国よりソニア・ガスキンさん（陸上競技）、オノオオバシ・オケイさん（柔道）、カリブ海の楽器スティールパン奏者のアリエル・ナースさんの3名が来市されました。偶然にも3名とも1994年・1995年生まれの同級生。カリブ海の陽気なイメージそのままのキュートな方たちでした。

大人気、組み手を熱望

24日、南陽市柔道連盟の稽古にオノオオバシ・オケイさんが参加。約60名の小中高校生と一緒に交流しました。オノオオバシさんと組み手をしたい子どもたち。中学生の感想では、「強かった」との感想も。稽古後には質問コーナーでは活発に質問する姿がありました。集合写真を撮影した後に記念撮影やサインを求める多くの子どもたちがいまいました。



△南陽高校陸上部と一緒に練習するソニア・ガスキンさん

はじめての楽器の演奏、カリブ海を想う

26日、南陽高校音楽室では、アリエル・ナースさんが吹奏楽部の学生約20名と交流。カリブ海の楽器スティールパンを実際に演奏させてもらいました。

スポーツや音楽は言葉を超えて交流できるものであること。子供たちの笑顔が印象的でした。



△南陽高校吹奏楽部の生徒にカリブ海の楽器スティールパンの演奏を教えるアリエル・ナースさん



△柔道スポーツ少年団員と一緒に稽古するオノオオバシ・オケイさん

ホストタウンシンポジウム シェルターなんようホール/小ホール

約180名の参加をいただきホストタウンパートナーのバルバドス国について触れていただきました。アトラクションでは、アリエル・ナースさんのスティールパンの演奏にカリブ海を想像いたしました。ドーン国際交流員からは、バルバドス国の紹介をいたしました。



講演「バルバドス 歴史-現在」

品田光彦駐バルバドス日本国特命全権大使の講演では、「バルバドス 歴史-現在」と題してバルバドスの歴史から現在までの同国の歩みが紹介され、長くイギリス領であったこと等日本とは異なる歴史を持つ国であることを認識しました。



パネルディスカッション

バルバドスについて、南陽市の印象、2020年東京五輪への抱負、ホストタウンパートナーとして南陽市に望むことなど話ができました。ソニアさんは、「山が好き、予選を通過し、2020年にまた南陽市に帰ってきたい。」と豊富を語りました。



ウォーミングアップやトレーニング方法を伝授

24日、南陽市陸上競技協会及び南陽東置賜駅伝ジュニア約30名の練習にソニア・ガスキンさんが参加。ソニアさんは800mが専門ですが、200mから1500mまでこなします。普段練習している内容をジュニアの皆さんに紹介しながら一緒に練習しました。26日は南陽高等学校の部活動に参加しました。陸上部・野球部・バドミントン部の学生約40人に、ウォーミングアップやトレーニング方法をレクチャー。ソニアさんが普段やっている動作をまねながら一生懸命にトライする姿が印象的でした。



可愛い和菓子 食べるのが可哀想

24日、南陽市芸術文化協会の方からお茶の作法を教えていただきました。初めて食べる和菓子は、雛人形をモチーフにした可愛い姿に大喜び。食べるのが可哀想と。バルバドスでも、お茶を飲む習慣があり、抹茶が美味しいとお代わりのリクエストもありました。



伝統文化の機織り、コースター作りを体験

26日、鶴の恩返ししの民話を聞いた後、機織りを体験しました。機織りでは、3人ともスムーズに作業し、自分だけのコースターが完成すると大喜びでした。資料館では、日本の昔の暮らしの様子や道具を見学しました。



※市ホームページでもご覧ください。
【ホストタウン】